



コメダ珈琲店を訪れた鈴木すまさん
写真左から、店員の天野さん、鈴木すまさん、紙ふうせんの職員

認知症特集

私は私らしく、 認知症と歩む

その人らしさは、 きっと続いていく

鈴木 すまさん 102歳

認知症対応型グループホームのヤザキケアセンター紙ふうせんに入所する、鈴木すまさん。

7月2日(水)、すまさんはヤザキケアセンター紙ふうせんの職員と一緒に、コメダ珈琲店裾野店（以下、コメダ珈琲店）を訪れました。この日の注文は、エビフライ。エビフライは、すまさんが大好きな食べ物です。認知症になる前、すまさんは息子夫婦と一緒にコメダ珈琲店を訪れていたことから、馴染みのお店で大好きなエビフライが食べられることをとても楽しみにしています。店員の天野由美子さんは、すまさんが認知症になる前からすまさんのことを知っています。



「すまさん、いつも息子さんと来てくれてましたね」「あら、私のこと知ってるの？小さい頃から？」「コメダに来てくれるようになってからですよ（笑）」すまさんの周りには笑顔と笑い声に包まれました。

認知症になっても、自分のやりたいことを続けられる。そんな社会が広がってきています。



認知症になっても 変わらないこと

コメダ珈琲店の天野さん

鈴木すまさんが、初めてコメダ珈琲店を訪れたのは12年ほど前。市内にコメダ珈琲店がオープンした日の翌日、すまさんの息子の鈴木好一さんに誘われて来店しました。離れて暮らす好一さんが帰省したときは必ず、すまさんと好一さんはコメダ珈琲店のモーニングを食べに行っていました。2人は明るい笑顔で接客をしていた店員の天野さんと親しい間柄になっていきました。

進む認知症と在宅介護の限界

「母は少しずつ物忘れが増えていて、気づいたら認知症になって

いた感じです。95歳の頃には、ひとり暮らしが難しくなりました。買い物に行って、買ったものを冷蔵庫にしまえずに和室に置きっぱなしにして腐らせるようになり、帰省すると家の外まで異臭がするくらい。これはまずいと月に何度も帰省しましたが、さすがに続けるのは限界だになって思うようになりました」と好一さんは当時を振り返ります。

認知症になっても自分らしく

7年前、すまさんはヤザキケアセンター紙ふうせんに入所しました。コメダ珈琲店に行きたいというすまさんの希望をかなえるため、施設の職員と一緒にすまさんはコメダ珈琲

店を訪れました。

「認知症になっても、施設に入っても、母は自分のやりたいことをちゃんと言っているみたい。それをかなえてもらえて、施設に入る前と変わらず地域とつながっていられるのはありがたいよね。母はいつもみんなに『ありがとう、ありがとう』って言っているよ。認知症の良い面は、忘れられること。みんな生きていて辛いことや悲しいことが沢山ある。その悲しみから解放され、忘れられることは幸せの一つだと思う」変わりゆく日々の中でも、母が母らしくいられる幸せ。好一さんは何度も、言葉に感謝を込めていました。



「認知症とともに生きる希望宣言」

(一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ)

1 | 自分自身がとらわれている常識の殻を破り、前を向いて生きていきます。

2 | 自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。

3 | 私たち本人同士が、出会い、つながり、生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。

4 | 自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、身近なまちで見つけ、一緒に歩んでいきます。

5 | 認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、暮らしやすいわがまちを、一緒につくっていきます。

3人を介護する生活

私は今、重度の障害を持つ娘と病気で倒れた夫、そして認知症の母の3人を介護しながら飲食店で働いています。

母の物忘れが始まったのは5年ほど前です。今では日常生活のほとんどに付き添いが必要になりました。夕方にならんと外に出て行ってしまい、1時間半も帰ってこなくて、みんなを探し回ったこともあります。

介護生活で大切にしているのは、一人で抱え込まないことです。母の認知症は、地区の役員をしていた時

に、皆さんにお伝えしました。「やっぱりそうだったのね」「これからは声を掛けるよ」という言葉があり、とても心が軽くなりました。

仕事を続ける理由

「働きながらの介護」は大変だと思われがちですが、仕事を辞めて介護に専念すると「介護をしなくては

ならない」という気持ちになります。

「仕事があったからできなかった」という良い意味での「逃げ道」ができます。もし同じように悩んでいる方がいたら、時間を短くしたり、働き方を変えたりしてでも、仕事は続けた方がいいと伝えたいです。



自分らしさを保つ

母は、毎日大量に出る洗濯物をきれいに畳んでくれるんです。それは今、母の大切な「仕事」になっています。私一人では手が回らないので、本当に助かっています。

自分の時間を作るのも大切ですが、時間が取れたときにはリフレッシュのためにラーメンを食べに行ったり温泉に行ったりしています。

夢は、まだ行ったことがないハウステンボスに行くこと。家族を置いては行けないので、みんなが動けるうちにやらないと。ショートステイなどをうまく利用して、いつか実現させたいですね。

大切なのは
一人で
抱え込まないこと

菅原 陽子さん

認知症の母と障害のある夫・娘の3人の介護を同時にこなしています。忙しい日々の中でも仕事を続け、「自分らしさ」を保っています。

認知症特集

私は私らしく、認知症と歩む

認知症の家族を持つ人の声



Aさん(匿名)

若年性認知症の妻を介護しながら、仕事と趣味に励んでいます。

妻と歩む「主夫」の毎日

妻が58歳で若年性認知症と診断されてから8年。今じゃ家のことは全部俺がやる「主夫」ですよ。大変なことも多いけど、女房がそばにいてくれるだけで、やっぱり嬉しい。俺にとっては生きがいですからね。

認知症になっても、昔と変わらず穏やかなところはそのまま。歌番組を観て一緒に口ずさんだり、俺が帰るとニコニコしてくれたりするんです。そういう顔を見ると、こっちも自然と笑顔になる。自分の趣味の時間で気分転換もしながら、これからも2人で歩んでいきたいですね。

娘からの電話

最初、俺は分からなかったんだけど、女房が自分で「なんか自分がおかしい」って感じて一人で病院に行ってさ。そしたら「認知症の気があるからご主人呼んでください」って言われて。女房は俺に言えなくて娘に電話してさ。娘から電話が来てすぐ病院に迎えに行ったよ。

泣いて笑って支え合って

女房と出かけるときは、自分の首に「介護マーク」を下げてさ。そうするとみんなが親切にしてくれる。あれには本当に助けられた。トイレの介助だって、介護マークを付けていれば、変に思われないもんさ。でも、介護マークを付けている人って全然見ない。市役所に行けばタダでもらえるのに。

介護マークを付けて、女房というんなところに行ったよ。熱海、伊東、三島…。河津桜も見に行ったし、毘沙門天にも行った。買い物に行くとさ、気づいたら女房の姿が見えなくなって、見まわしたら知らないおじ



さんの隣にぴたっとくっ付いていた(笑)。おかしかったなあ。

それでも、なんだか急に意識がクリアになる時があってさ。夜「何で自分はこんな風になっちゃったんだ」って泣いていたときがあった。

隠さない勇気が生んだ幸せ

認知症を恥ずかしいなんて思わなかった。誰でもなるかもしれないし、誰も悪くない。なのに、みんな認知症を隠そう隠そうとするから、苦しくなるんだよ。認知症をオープンにして、後悔したことなんて一つもないよ。隠そうとすると、自分や家だけで抱え込まなきゃならない。本人も家の中で隠してって、それじゃあみんな幸せじゃないよ。

家の近所で女房が迷子になることが2回もあった。認知症のことは近所の人も知っているから、「奥さん迷子になってたよー」ってすぐに教えてくれるんだよ。認知症のことを誰にも言わないでいたら、見つけれなかった

たかもしれないなあ。

大変なこともいろいろあったけど、今思うと面白かったな。

認知症をオープンにして、後悔したことなんて一つもないよ



椎名 良吉さん

65歳で認知症と診断された妻を、7年間自宅で介護した経験を持っています。妻は8年前に他界し現在は一人暮らし。

介護マーク



認知症の人の介護は、外見では介護していることが分かりにくいことがあります。介護をする人が介護中であることを周囲に理解してもらうためのものです。

配布場所／介護保険課、地域包括支援センター

介護を語る会

介護している仲間と悩みを共有し、ほっとできる場です。介護する人も、される人もお互いに笑顔で暮らせる方法を一緒に考えましょう。地域包括支援センターの職員も参加していて、その場で相談することができます。

時 偶数月の第1金曜日 13時30分～15時

所 市民文化センター3階会議室

☎ 市介護家族の会(杉山) 090-1984-9977



脳いきいき運動教室

脳いきいき運動教室は、健康で自立した生活を続けていくために、ストレッチや筋力アップ体操、脳トレ、健康維持や認知症予防の講話などを行う教室です。無料でプロの指導が受けられます。※令和7年度の募集は終了しています。



認知症特集

私は私らしく、認知症と歩む

認知症とは

認知症の原因と対策

認知症とは、さまざまな原因によって脳の細胞に障害が起こるなどし、記憶や判断力など認知機能が低下した状態が続き、生活に支障が出ている状態のことを言います。

認知症の発症に影響すると考えられている原因に、難聴、喫煙、生活習慣病（高血圧、肥満など）、うつ、活動低下、社会的孤立などがあります。難聴の人は補聴器を使う、喫煙者は早期に禁煙をする、生活習慣を

改善するなどの対策が効果的です。また、定期的な運動習慣やバランスの良い食事、社会活動への参加や人との交流なども認知症予防に効果があると報告されています。

加齢による物忘れと認知症による物忘れの違い

加齢による自然な物忘れは、体験したことの一部分を忘れてしましますが、認知症による物忘れは「いつ、どこで、何を」といった出来事や体験を全て忘れてしまう特徴がありま

増える認知症

認知症の人の数は令和7年には471.6万人、団塊ジュニア世代が65歳以上になる令和22年には584.2万人にのぼると推計されています。認知症の一手手前の状態である軽度認知障害（MCI）も合わせると、高齢者の3人に1人が認知障害を有すると言われています。

（出典：厚生労働省「認知症及び軽度認知障害（MCI）の高齢者数と有病率の将来推計」）

認知機能の障害

障害名	症 状
記憶障害	同じことを何度も言ったり、物をなくしたりする
言語障害	人や名前が出てこない
視覚認知障害	知っているはずの場所で迷う
実行機能障害	物事を計画立ててできない
社会的認知障害	他人に共感や同情ができない



認知症サポーター養成講座

す。出来事の記憶を忘れてしまうため、「何度も同じことを言う」「決められた日を間違える」といったことが起こります。また、財布などをしまった体験自体を忘れてしまうため、「財布が盗まれた」と思い込むことがあります。

認知症かなと思ったら

「もしかして認知症かも…」と思われる症状に気付いたら、一人で悩まず、早めにかかりつけ医や地域包括支援センターなどに相談しましょう

う。早期診断、早期治療により進行を遅らせたり、症状を緩和できたりする可能性があります。



認知症相談窓口

もっと認知症について
知りたい人は…

ちょっと一息ついてもらえる 認知症えびそど集

認知症の人の介護は、身体的・精神的にも負担が多いというイメージがあるかもしれませんが、実際の現場にはそのイメージとは異なる、心が温まるエピソードがたくさんあります。この本で認知症についての見方を変えてみませんか。

介護保険課、社会福祉協議会で配布しています。



加齢による物忘れと認知症による物忘れの違い

加齢による物忘れ	認知症による物忘れ
体験の一部を忘れる	全体を忘れる
探し物を努力して見つけようとする	探し物を誰かが盗んだと言うことがある
取り繕いは見られない	しばしば取り繕いが見られる
日常生活に支障がない	日常生活に支障をきたす





チームオレンジすその発足式(令和6年1月30日(火))

認知症になっても、いつまでも自分のやりたいことを続けたい。その想いを地域社会で支えるしくみが「認知症の方にやさしいお店 チームオレンジすその」です。

「認知症の本人が真ん中にいて、本人がやりたいことをかなえる」ことをミッションにしています。

令和5年度に始まったこの支援体制は、協力店舗と市役所、地域包括支援センター、社会福祉協議会がチームを組み地域を挙げて認知症への支援が

必要な人のサポートをしています。支援の輪は徐々に広がり、18店舗が加盟しています(8月1日現在)。



認知症特集

私は私らしく、認知症と歩む

やりたいこと

認知症の方にやさしいお店 チームオレンジすその

認知症になってもやりたいことをかなえる支援のネットワーク

持って安心！使って便利！ 希望をかなえるヘルプカード

ヘルプカードは、ひとりでの買い物や外出に不安のある人が、周りの人に自分が望むことやお願いしたいことを書いておき、必要な時にだけ見せて使うカードです。カードを使うことで、自分が望む社会参加を続け、地域で元気に暮らし続けることができます。

チームオレンジすその加盟店では、ヘルプカードを安心して使うことができます。カードは、介護保険課や地域包括支援センター、チームオレンジすその加盟店で配布をしています。





チームオレンジすそのに加盟していた安全タクシー(有)の加藤富也さんは「裾野市はこういうの(認知症の人を個々で地域につなぐ取組み)に優しいよ。自分たちもいつか同じようになるかもしれないしね」とつぶやいていました。

※安全タクシー(有)は、7月31日(木)に営業終了

チームオレンジすその加盟店

ウエルシア薬局、スーパーカドイケ、クリエイトエス・ディー、マックスバリュ(いずれも市内全店舗)、JAふじ伊豆すそのふれあい市、全日食チェーンひまわり佐野店、ミツワタクシー、山田商事(株)



加盟店のしるし(ステッカー)

チームオレンジすその加盟店募集中

認知症を正しく理解するための「認知症サポーター養成講座」と「オレンジスタッフ養成講座」を受講するとチームオレンジすそのに加盟できます。やりたいことを続けられる地域社会を、一緒につくっていきましょう。

☎ 介護保険課 995-1821



を続けられる地域社会へ

地域でつなぐ、支援の輪

「認知症になっても、大好きな買い物を続けたい」という思いに寄り添うのが、チームオレンジすそのです。実際にスーパーとタクシー会社の連携で、自宅の住所が答えられなかった認知症の人が、買い物先から無事に帰宅できた事例もあります。

チームオレンジすそのに加盟しているタクシー会社にサポートを依頼することで、もしも外出先で自宅へ戻れなくなった場合でも、帰宅する

ための支援が受けられます。

市内に住むある女性は、チームオレンジすそのチラシを手に取りながら言いました。「うちの認知症の母は、最近同じものばかり買ってくるようになって、いい加減一人で買い物に行くのをやめさせようかなって思っていたんです。でも、行きつけのお店にチームオレンジすそののぼり旗が掲げてあって…。もう少しこのまま、母を自由に大好きな買い物に行かせてあげようって思えたんです」。

チームオレンジすその加盟店の声

認知症の方にやさしいお店 チームオレンジすその
スーパーカドイケ裾野東店



こうすけ
店長 関 皓介さん

常設しているのぼり旗を見たお客様同士が「あれは何だろうねぇ?」「認知症になっても大丈夫ってことだよ。みんな優しくしてくれるって」と会話されていて、メッセージは届いているのかなと感じました。

僕はお客様に何回同じことを聞かれても、何回でも答えようと思っています。認知症があってもなくても。お客様が困っていたらその都度手助けしたいです。



広がる、認知症への理解

認知症への理解を深めるための活動が広がっています。認知症を正しく知るための認知症サポーター養成講座や、認知症カフェが市内で開催されています。

認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座とは、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対して出来る範囲で手助けをする「認知症サポーター」を養成する講座です。

人格形成の重要な時期にいる子どもや学生に対する講座の開催は特に重要なため、6月17日(火)、須山小で高齢者疑似体験と認知症キッズサポーター養成講座をセットで市で初めて開催しました。

総合的な学習の時間で認知症を学ぶ

須山小5年生の総合的な学習の時間のテーマは「須山のみなさんの幸せ」です。「須山には高齢者が多く住んでいる」という意見から、福祉分野への探究が始まりました。

授業では、高齢者がかかりやすい病気や介護に関することなどを、グループに分かれて発表をしました。

高齢者疑似体験では、視覚障害体験ゴーグルや重り付きベスト、難聴体験イヤーマフを使い年齢による身体の変化を体験しながら学びました。

認知症キッズサポーター養成講座では、認知症の概要や、認知症の人の気持ち、接し方、声掛けのポイントなどを学びました。

藤川琴桜さんは、「高齢者は視界が狭くなるので、これからは突然後ろから肩とかをトントンしないようにしようと思いました」と講座の感想を話しました。



視覚障害者体験ゴーグル

フィールドワークへ

須山小5年生は学んだことを生かし、地域の高齢者が集まる地区サロン「ごんべっこの会」に参加しました。サロンのメンバーに教えてもらいながら、一緒に七夕飾り作りをしました。

根上寿々花さんは「大きな声で話



ごんべっこの会

せなかったから、次はもっとはきはき大きな声で話せるよう意識しようと思いました」と活動を振り返りました。

須山小から誕生した認知症キッズサポーターは15人。少しずつですが、地域で支える輪が広がってきています。

認知症サポーター養成講座に参加しませんか

認知症の症状や、接し方のコツを学ぶ講座です。認知症サポーターは、特別なことをする人ではありません。認知症を正しく理解し、認知症の人とその家族を温かく見守り、声掛けやちょっとした手助けができる地域の応援者です。

時 11月19日(水) 13時30分
～15時

所 生涯学習センター

費 無料

申 必要(広報すその
11月号で募集)

☎ 介護保険課
995-1821



運転を考える認知症カフェ

認知症カフェは、認知症に関心のある人が誰でも集うことができる交流の場です。運転を考える認知症カフェは、高齢者の運転と認知症について考える会です。

車の運転は、私たちの生活に深く関わっています。1日でも長く安全に運転するために必要なことや、運転を卒業した後の移動手段について元気なうちから考え、備えておくこ

とが大切です。ライフステージの変化に応じた移動手段について一緒に考えましょう。

「たまには人を乗せて、自分の運転の癖や傾向を見てもらうことも必要だと感じました」と参加者は話しました。

次回の運転を考える認知症カフェは、令和8年1月31日(土)を予定しています。



認知症カフェから広がる理解



金沢いきいきカフェ

認知症対応型デイサービスの金沢いきいきホームが、年に数回、地域の人を招いて開催している金沢いきいきカフェ。お茶を飲みながらいつか自分もなるかもしれない認知症について話をしたり、ゲームをしたりして交流を深める活動をしています。

今回で3回目になる金沢いきいきカフェには、大人と子ども12人が参加しました。「認知症は恥ずかし

いことで、隠さなければならないと思われていた時代に生きてきました。認知症になってもできることが残っている病気ということが分かりました」と参加者は話しました。

「参加者が集まるかが心配でしたが、回を重ねるごとに人が増えていきます」と金沢いきいきホームの窪田さんは手応えを感じている様子でした。

認知症カフェ

みんなでほっとひと息♪ 認知症カフェへようこそ!



おしゃべりしたり、ちょっとした相談をしたり、ほっとできる時間を過ごしませんか。認知症に関心がある人は誰でも参加できます。市内では4カ所で認知症カフェを開催中です。



かぼちゃカフェ (左の写真)

かぼちゃカフェは、毎月第1火曜日にウエルシア裾野御宿店のカフェスペースで開催している認知症カフェです。



認知症介護の経験を未来へつなぐ

長澤 由美子さん

市介護家族の会 代表

認知症の義母と実父を介護した体験を基に、介護当事者に寄り添い続けています。家族の声を施策に届け GPS購入等費用助成などが実現。

当事者の声が変わる未来

義父のがんの看病と認知症の義母の介護、さらに赤ん坊を含む3人の子育てが重なり、今で言うダブルケア、トリプルケアのような大変な状況にいたことがあります。

その後、数年経ってから実父が認知症になりました。その後、実母もがんを患い、その看病も重なりました。

父は元自衛官です。台風が来るとアンテナを守るために屋根に上がり、川が増水すれば見に行ってしまうます。認知症になった父は、万歩計型のGPSをすんなりと着けてくれました。本人がマジックで「GPS」と書いていたので、何なのかは分かっていなかったかもしれません。

令和7年度から始まったGPS機

器等購入費用助成は、当事者の声が行政に届いて実現しました。二次元コードから家族に連絡できる「どこシル」も現場の声から導入されました。何年もかかるかもしれませんが、当事者の声を行政に届け、施策につなげていくことが介護家族の会の役割の一つだと思っています。

頑張り過ぎなくていいんです

私が自分の経験の中から学んだ介護のコツをお話します。認知症の人から見たときに、介護をする側が「良い人」「優しい人」に思われるように振る舞うと、介護が楽になります。言いたくなる気持ちをぐっとこらえて、「あらあら」と受け流す。セーターの上にブラウスを着て、一番上が肌着といううぐはぐな格好でも「まあ、いいか。今日はこのまま

デイサービスに行こう」と思えるくらいの「割り切り」が大事なんです。

私自身、義母の介護より実父の介護の方が精神的に辛かったです。「もう少し分かってくれてもいいのに」という期待が出てきてしまうんですね。距離感が近いほど、イライラしてしまうものなんです。

それと、周りの人や自分自身の「こうすべき」に振り回されないでください。「自分の親だから自分で看るのは当たり前」。そんなことはありません。上手にサービスを目いっぱい使いましょう。

皆さん、本当に頑張っているんです。だから私は「一生懸命やりすぎですよ」と声を掛けてあげたいです。介護している人が、体や心を壊してしまつては、元も子もありませんからね。



「おかえり」が言えるまちへ ～ 介護家族の会から生まれた取り組み ～

GPS機器等購入費用助成

認知症で行方不明になる可能性がある人を対象に、GPS機器（および付属品）の購入や貸与の初期費用を最大1万円助成します。

☎介護保険課 995-1821



どこシル伝言板(服などに貼る二次元コード)

衣類や持ち物に二次元コード付きシールを貼り、発見者が二次元コード読み取ることで通知できる仕組みです。伝言板を使うため、個人情報を開示せずに、発見者と家族をつなぎます。

☎市社会福祉協議会 992-5750



人だけでなく全ての人にやさしいまちへ

「前を向いて」みんなで 歩いていきましょう

勇気を出して話してみよう

認知症のことを自分や家族が周りに話すことは、少し勇気があることかもしれません。「だまされたらどうしよう」「悪いことに巻き込まれたら困る」と心配になるのも、自然なことです。特にお金の管理などは、家族がしっかり見守る体制が必要です。

認知症のことをオープンにすることで協力してくれる人が増え、見守りの力が強くなります。実際に認知症のことを周りに話した人たちの多くが、「もっと早く話せばよかった」と感じています。

家族だけで悩みを抱えていた人も、認知症のことを周囲の人に話してみると「何かできることがあれば手伝うよ」「もっと早く教えてくれたらよかったのに」と、温かい言葉をかけてもらい、安心したそうです。

家族だけでなく地域や近所の人たちの支えもあると、認知症の人は安心して外に出られます。スーパーやコンビニなど、よく行く場所にあらかじめ認知症であることを伝えてお

けば、道に迷ったり、何をしに来たのか分からなくなったりしたときに周りの人が助けてくれます。

まずは、信頼できる人に話してみるから始めてみてください。

あなたらしさは、変わらない

認知症は「暮らしの中で困ることが増える状態」と言われています。でも、私たちの暮らしは、人とのつながりで支えられています。認知症があっても、社会の中で活動続けることは、誰かの暮らしを支えることにもつながります。

認知症はある日突然なるものではありませんし、すぐに何もできなくなるわけでもありません。できないことが増えても、できることもたくさん残っています。認知症になっても、あなたはあなたのままです。

全ての人にとってやさしいまちへ

これからの社会は、人口が減っていくことで、今まで当たり前に行っていたことが難しくなるかもしれま



かど
角 春美さん

認知症地域支援推進員（保健師）

認知症の人と家族を地域で支える「つなぎ役」として、令和7年度から介護保険課に専従として配置された保健師。

せん。だからこそ、認知症の人の「まだできる力」を生かすことも大切です。認知症になっても、社会の中で果たせる役割が実にたくさんあるという認識を広げていきたいです。

お互いに声を掛け合い、助け合えるまちは、認知症の人だけでなく、全ての人にとってやさしいまちになります。認知症を特別なものとせず、暮らしに困っている人みんなにやさしい社会を目指して、「前を向いて」みんなで歩いていきましょう。

高齢者が安心して社会とつながれる体制

徘徊高齢者等見守りネットワーク事業

認知症やその他の理由により徘徊の恐れのある高齢者、障害により徘徊の恐れのある人の情報を、親族や後見人などの申請で市に事前に登録できます。登録者が行方不明になった場合には警察や消防などと連携し、早期発見する体制を整えています。

☎総合福祉課 995-1882

